

「地域を知ろう」～地元の文化施設の魅力を広げよう～

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力
 他者とかかわる力 社会貢献力 自己形成力

単元について

○生徒観

本学年の生徒は、普段の学習において、自分たちの思いや考えを伝えることはよくできている。しかし、伝えたい・発信したいという意欲が強い（※表1の①、②）反面、相手の思いや願いを受け止めようとする意識は必ずしも高いとはいえない。また、普段の授業の中で地域や自然の中で学習するなどの実体験を通して学習していない（※表1の③）生徒が25%もあり、学習が教科や領域を超えて実生活や実社会に生かされていないことが分かる。

表1 第1学年生徒アンケート

アンケート項目	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
①授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。	29.8%	55.6%	13.3%	1.3%
②学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	29.8%	44.0%	20.9%	5.3%
③授業では、実際にモノを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	25.8%	48.4%	22.2%	3.6%

(平成27年6月30日225名)

○単元観

本単元は、地域の文化施設に注目し、その施設の現状と課題を見いだすことを通じて、生徒自らが関わった施設に対して「何かできることはないか」「もっと地域の文化施設を盛り上げることはできないか」をテーマに生徒たちが考え、整理し、まとめ、発信していくという単元である。

第1学年の総合的な学習の時間における地域理解・社会貢献学習では、まず、博物館や公民館、図書館などそこで働く方々や、お年寄り、乳幼児など、様々な人と直接かかわること。また、教科の学習で学んだ多様な技能を実際に生かすことを大切にしている。例えば中学生という立場での「礼状の書き方」や「敬語の使い方」などは、国語科の学習で学んだことを実社会において生かす場である。直接生徒が、地域の中へ出向き、様々な人とのかかわりを通して、いままで学校で学習してきたこと、身に付けてきたことが生かされることを実感することで、自らの意欲や価値観が高まると考える。

また、地域の中での活動は、学校外の人とのふれあいや新しい体験が豊富にある。そこから、「課題の発見」「課題の設定」「課題解決」に向けての活動を通して、自分なりにできることを考え行動できる生徒を育てるとともに、課題解決の過程において筋道を立てて取り組む姿勢や協働して課題を解決する過程を通して、地域の誇りを持ち、自分と地域のこれからについて考え、社会に貢献するよりよい生き方をしていこうとする態度を育成できると考えこの単元を構想した。

○指導観

指導にあたっては、事前に生徒が小学校の総合的な学習の時間でどのようなことを学び、学校や地域へ向けてどのような発信をしてきたのか、また、小学校までにどのような体験をし、どのような力を身に付けてきたのかを交流することで、中学校でめざすべき活動や学習のレベルをイメージさせる。

本単元は、地域から「思いや願い」を受け止め、自らの「思いや願い」につなげ、自らが見いだした課題に対して、他者と協働して課題解決へと導き、その成果を地域へ発信できるように指導していく。そのために、「課題発見・解決学習」の6つの学習過程を生徒に意識させ、探究

的な学習，そして自己形成につながるような学びにする。

学習過程の各場面においては，以下の内容に重点をおいて指導を行う。

課題の設定の場面では，生徒自らが課題意識をもち，その意識が次への問いや意欲，興味につながるように，地域の文化施設に触れる機会を十分に持たせる。小学校における「総合的な学習の時間の学びの振り返りや地元の文化施設について知っていることを交流したり，実際に文化施設を調べる活動を行ったりすることで，生徒たちが知っている情報と実際の情報との「ずれ」や「隔たり」から課題を設定する。情報の収集の場面では，必要とすべき情報を，どのような方法で，どのように集めたらよいか確認する時間を設定する。また，生徒が実際に現地に行って収集した情報で足りないところは，情報機器等で補完する。また，活動に必要なスキルを演習・習得する場面としても捉え，礼節や受け答え，プレゼンの仕方など他の教科との関連も踏まえ効果的に指導する。

整理・分析の場面では，収集した情報を目的に応じて整理・分析できるように，生徒の求めに応じて思考ツールが使えるよう事前に提示しておく。（グラフ，表，フロー図，ベン図，マトリックス等）また，このような整理・分析の仕方を教科等でも関連を意識しながら指導することで目的に応じたツールを生徒にとって使える道具として定着させるようにする。

まとめ・創造・表現の場面では，情報を整理・分析したものをもとに，地域の文化や文化施設をどう盛り上げていくことができるか，構想したものを具体的に「企画書」という形で相手意識や目的意識を明確にしてまとめさせる。さらに，ゲストティーチャーに，自分たちの企画をポスターセッション形式でプレゼンにすることを通して評価していただき，自らの企画の課題や実行の可能性を探り，再度企画を練り直す。

実行の場面では，生徒が関連する文化施設へ出向き，施設担当の方にも協力も仰ぎ，企画を実行に移す。また，実行に至らなかった企画についても市役所の文化課へ「文化施設の活性化のための提案書」として提案させる。

振り返りの場面では，本単元の活動を振り返り，付けたい力がどのようにして，どの程度身に付いたのかを文章で整理させ，自己評価を通して自らの成長を認識させる。

この活動を通して，成果だけでなく課題解決の方法や，新たな願いや思いなどもしっかり書かせることで，今後の生き方に対する考えや地域へ貢献しようとする態度，総合的な学習の時間等における学習の探究心をさらに高めさせる。

資質・能力及び態度の育成にあたっては，以下内容を重点において指導を行う。

A：思考力・判断力・表現力

自分の考えをどのようにまとめたいのか，また，それをもとに自分は何を伝えたいのか，どう表現したいのか，どう実行したいのかななどを思考・判断・表現の視点として明確に持たせる。

B：主体的に学ぶ力

話し合いや，議論を焦点化させる協働場面では，生徒自らの考えや意見をグループやクラス全体で話し合う。その際，「人の考えや意見を肯定的に受け止めることができているか」，「自らの考えや意見を主張することができるか」 「全体の合意形成を受け，意見や考えをまとめることができているか」をポイントにおき指導する。

C：自己形成力

課題をチームとして解決するために，生徒自らができることを考え進んで行動しようとする姿勢の大切さを共有させる。

また，単元の終末では，単元を振り返り，自分はこの活動を通して，どんな力が身に付き，どう成長したのかを文章でまとめることができるようにさせる。

D：他者とかかわる力

学校外に出向き，生徒が地域の文化や文化施設の良さ，そこの関わる人の思いや願いに直接触れることで，生徒の内から湧き出てくる感情や思いを課題発見・解決につなげられるよう，交流の場を生徒全員が持つことができるようにする。また，生徒同士で課題を共有したり，意見をぶつけ合うことを通して，他者とかかわり方や，自らの考えを広げたり深めたりすることの大切さを実感させる。

E：社会貢献力

生徒自らが，本単元を通じて，地域とどう関わりどう参画・貢献していくことができるのか，また，この地域を自分はどうしていきたいのかなどの思いが湧きでてくるよう，本活動で関わっていただいた方からの評価や生徒同士の他者評価の場面を多く設定し，自らの活動の意味や意義，達成感を持たせる。

単元の目標

単元の活動を通して、地域の文化や文化施設の良さや魅力を知り、さらに活性化するためにはどうすればよいかを考え、提案することができる。

育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力及び態度			評価規準
知識	知識・情報	知	①地域の文化施設について理解を深めることができる。
スキル	思考力・判断力・表現力	思	①調べた情報から必要な情報を抽出し、自分なりにまとめることができる。 ②現状を踏まえ、これから何をすべきかを自ら決定することができる。 ③相手に、伝えたい内容を精選し、相手に分かりやすく伝える工夫をしている。
意欲態度	主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見だし、課題解決の方法を考えようとしている。 ②自ら課題を見だし、協働して解決しようとしている。
価値観 倫理観	他者とのかかわる力	他	①地域のニーズを見いだすために、地域の人へ調査することができる。 ②仲間とともに話し合いにより考えを広めたり、深めたりすることができる。 ③活動や取組の成果を支援者と共有できる。
	社会貢献力	社	①地域の課題解決のために、何をすべきかを考えたり、実行に移したりすることができる。
	自己形成力	自	①課題解決に向けて、前向きにチャレンジしている。 ②単元を振り返り、この地域でよりよく生きるとはどういうことか考えることができる。

単元と評価の計画

1 年間の指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	「地域を知ろう」～地域の文化施設の魅力を広げよう～ (40時間)							「職業ロードマップをつくろう」(10時間)				
	地域理解・社会貢献							自己探究				

2 単元と評価の計画

小単元名	学習過程	時数	学習内容 学習活動	評価規準 (評価方法)	教科との関連	
地域の文化施設を調べよう	情報の収集	1	○オリエンテーション ・中学校3年間で総合的な学習の時間で何を学び、どのような力をつけていくのかを確認する。(1)	【思-③】 (行動観察) (自己評価表)	⇒【体育】 集団行動 ・あいさつ ・礼 ・声の大きさ	
		2	○これまでの学習を振り返る。			
		3	・小学校の総合的な学習の時間で学習したことを交流し、お互いに何を学んだのか、どのような力が身に付いたのか、どのようなことに苦労したかを交流する。(2)			
		4	○福山市において、自慢できることや特色あるものを交流し、自分たちがどの程度城北中学校区のことについて知っているのかを再確認する。			
		5	・福山市において自慢できるもの、特色あるものがなんであるかを交流する。(2)			
	課題の設定	6	○地域の文化や文化施設、文化ゾーンについて交流する。	【思-②】 【主-①】 (行動観察) (自己評価表)		⇒【英語】 福山市の好きな場所の紹介
		7	・文化ゾーンやそこにある施設などについて知っていることを交流する。(1) ・現状を把握し、どの文化施設について調査したいか考える。(1) ⇒地域の文化施設についてもっと調べたい			

地元の文化施設を調べよう	情報の収集	8 9	○担当の文化施設について、事前に地域の認知度を調査し集計する。 ・各グループで、担当の文化施設について、認知度を調査し、集計する。(2)	【自-①】 【他-①】 (行動観察) (自己評価表)		
	整理・分析	10 11 12	○認知調査の結果をまとめ実地調査の内容を決定する。 ・認知調査で調べたことを学級内で交流し、実地調査で調べることを決める。(3)	【思-①】 【思-②】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【数学】 根拠をもって論理的に説明する	
	情報の収集	13	○インタビュー先へアポイントを取り実地調査を行う。 ・電話でアポイントを取る練習を行い、実地調査のアポイントをとる。(1)	【自-①】 【他-②】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【保健】 人とのかかわりと自分らしさ ・社会性 ・中学生期における人とのかかわり方	
		14 15 16 17	・実地調査を行う。(4)	【知-①】 【他-①】 (自己評価表)		
		18 19	・調査結果を整理する。(2)	【思-①】 【他-②】 (行動観察) (自己評価表)		
20 21		○調査結果と生徒の意識とのズレから課題を設定する。 ・調査結果から見えてきた地域の文化や文化施設の課題を見い出す。(2) ⇒ もっと地域や他の地域の人たちに福山文化施設を知ってもらいたい	【他-②】 【主-①】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【社会】 世界の様々な地域の調査		
地元の文化施設を盛り上げよう	情報の収集	22 23	○文化施設の活性化のための案を考える。 ・企画書の作成方法を確認する。(1) ・ワークシートに案を書きだす。(1)	【思-①】 【社-①】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【数学】 情報を表やグラフを用いて整理する	
		24 25	・企画書の第1案を作成する。(2)	【思-①】 【自-①】 (企画書) (自己評価表)		
		26	・実現の可能性と効果の有無を吟味し、企画書の加筆修正を加える。(1)			
	まとめ・創造・表現	27 28	○提案のための発表原稿をつくる。 ・発表の役割分担を決定し、原稿を作成する。(2)	【思-③】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【数学】 根拠をもって論理的に説明する	
		29 30	・ポスターセッションのリハーサルをクラス内で相互評価を行う。(1) ・企画書及び発表原稿の修正を行う(1)			
		31 32	○関係する施設の方にゲストティーチャーとして来ていただき、ポスターセッションを行う。 ・体育館でポスターセッションを行い、ゲストティーチャーより講評をいただき、企画実現のための新しい視点を示していただく。(2)	【思-③】 【主-②】 (行動観察) (他者評価表) (自己評価表)		⇔【技術】 作品の表現・発信・パワーポイントでのプレゼンテーション
		33 34 35	○最終の修正案を作成する。(1) ○再度関係する施設の方に企画書を見ていただき、実現可能な提案について、実行の承諾をいただく。(2)			
		36 37 38 39	○企画の実行(4)			
	振り返り	40	○今回の学習を振り返り、ポスターセッションの評価も含め振り返りシートにまとめる。 ・学習前と学習後において、地域や地域の文化に対する考えがどのように変わったかを振り返る。(1)	【自-②】 (自己評価表)	⇔【国語】 学習したことを自分の言葉で表現する	

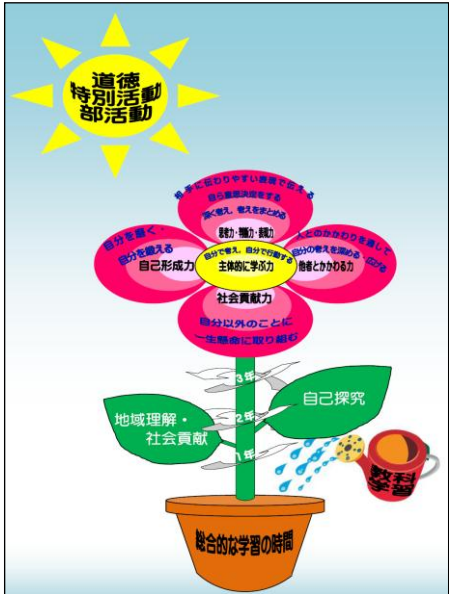
本時の学習展開

○本時の目標

- ①中学校3年間でどんなことを「総合的な学習の時間」で学ぶのかを理解する。
- ②小学校の「総合的な学習の時間」で学んだことを交流し、これまでの学習を振り返る。

○学習展開 (1・2・3限目/40)

情報の収集

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 オリエンテーション</p> <p>①オリエンテーションにより、中学校で行う「総合的な学習の時間」について、3年間の見通しをもつ。</p> 	<p>①オリエンテーションは、全クラスまとめて、体育館で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左の図を用いて、中学校3年間で、どのようなことを学習し、どのような力を身に付けていくのかをイメージさせる。 ⇒5つの資質・能力を身に付けるために普段から意識することを、生徒に分かりやすい表現で例示する。 ⇒「総合的な学習の時間」では、《地域理解・社会貢献》の単元と《自己探究》の単元の2つを各学年で行い、これを3年間繰り返すことで、自らの能力を高めていくことを目的としていることを伝える。 	
	<p>2 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>①本時の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校までの、学習の振り返りを行うことを確認する。 	<p>①生徒をオリエンテーションの会場である体育館から教室へ移動させ、本時のめあてを確認する。</p>	
<p>【本時のめあて】</p> <p>「総合的な学習の時間」の今までの学びとこれからの学びとのつながりを確認しよう。</p>			
展開	<p>3 小学校で、学習したことを振り返り、交流する。</p> <p>①小学校で学習したことを振り返り、ワークシートに記入する。</p>	<p>①ワークシートを用意し、以下の点を各自で書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学年で、どのような学習をしたか ・特に印象に残っている活動は何か ・どんなことに達成感を感じたか ・どんなことが悔しかったか ・その学習でどんなことが身に付いたか ・これからどんなことに活動(挑戦)してみたいか 	

展開	②小学校で学習したことを交流する。	②下記のことに留意し、交流させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・全員発言させること ・質問や気づきがあれば発言させること ・事前に、校区の小学校でどのようなことを学習してきているのかをある程度把握しておくこと ※下記の表はその例 ※校区外から入学した生徒にも、事前に小学校で学習したことを確認しておくこと	相手に、伝いたい内容を精選し、相手に分かりやすく伝える工夫をしている。 【思-③】 (行動観察) (自己評価表)																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主な内容</th> <th>身近な地域</th> <th>環境</th> <th>産業・食</th> <th>伝統文化・歴</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">単元等</td> <td>A小</td> <td>・私たちの町を知ろう ①校区の公共施設を探検しよう ②地域の昔のくらしを伝えよう ③地域に伝わる行事を知ろう</td> <td>・声田川博士になろう ・平和について考えよう ・平和のためにできることを考えよう</td> <td>・環境問題について考えよう ・食生活について考えよう ①うずみ学習 ②食べ物にかかわる生産者の苦勞を知ろう</td> <td>・昔の人のくらしから、生き方、考え方を知ろう ①福山の歴史を探ろう ②京都・奈良・大阪のれきしを探ろう 自分の生き方を考えよう</td> </tr> <tr> <td>B小</td> <td>・榎のまち・鯛網のこと教えます ・樹徳の宝を見付けよう ・伝統文化にふれよう</td> <td>・どんだん池クリーン作戦 ・平和の大切さを伝えよう</td> <td>・樹徳米を作ろう ・豊かな体験を成功させよう ・福山の等を伝えよう</td> <td>・人とともに生きよう ・伝統文化をつなげよう ・自分史を作ろう</td> </tr> <tr> <td>C小</td> <td>・栄養満点大豆を作ろう ・大豆を使って食品作りしよう ・文化祭で大豆の秘密を知ってもらおう ・学んだことをまとめて発表しよう</td> <td>・上井手川博士になろう ・平和について考えよう ・声田川/パピリオンを開こう ・福山のごみ問題を考えよう</td> <td>・見直そう！食生活 ・体にも環境にも良い米作りしよう ・世界の米料理、日本の米料理 ・学んだことをまとめよう</td> <td>・わたしたちの町を紹介しよう ・歴史探検しよう ・お世話になった方を招き、感謝の会を開こう</td> </tr> <tr> <td>D小</td> <td>・明王台探検しよう ・食べ物はどこから ・野菜づくり ・世界の行事や遊び</td> <td>・みんなにやさしくらし ①SR大作戦 ②福祉について考えよう ③声田川とともに</td> <td>・見直そう！食生活 ・お米レシピを作ろう ・ふるさと広島 ・共に生きる ・学んだことをまとめよう</td> <td>・わが町のエネルギー ・環境問題を考えよう① ・日本の伝統文化を探ろう ・環境問題を考えよう② ・夢や目標に向かって自分を見つめよう</td> </tr> </tbody> </table>	主な内容		身近な地域	環境	産業・食	伝統文化・歴	単元等	A小	・私たちの町を知ろう ①校区の公共施設を探検しよう ②地域の昔のくらしを伝えよう ③地域に伝わる行事を知ろう	・声田川博士になろう ・平和について考えよう ・平和のためにできることを考えよう	・環境問題について考えよう ・食生活について考えよう ①うずみ学習 ②食べ物にかかわる生産者の苦勞を知ろう	・昔の人のくらしから、生き方、考え方を知ろう ①福山の歴史を探ろう ②京都・奈良・大阪のれきしを探ろう 自分の生き方を考えよう	B小	・榎のまち・鯛網のこと教えます ・樹徳の宝を見付けよう ・伝統文化にふれよう	・どんだん池クリーン作戦 ・平和の大切さを伝えよう	・樹徳米を作ろう ・豊かな体験を成功させよう ・福山の等を伝えよう	・人とともに生きよう ・伝統文化をつなげよう ・自分史を作ろう	C小	・栄養満点大豆を作ろう ・大豆を使って食品作りしよう ・文化祭で大豆の秘密を知ってもらおう ・学んだことをまとめて発表しよう	・上井手川博士になろう ・平和について考えよう ・声田川/パピリオンを開こう ・福山のごみ問題を考えよう	・見直そう！食生活 ・体にも環境にも良い米作りしよう ・世界の米料理、日本の米料理 ・学んだことをまとめよう	・わたしたちの町を紹介しよう ・歴史探検しよう ・お世話になった方を招き、感謝の会を開こう	D小	・明王台探検しよう ・食べ物はどこから ・野菜づくり ・世界の行事や遊び	・みんなにやさしくらし ①SR大作戦 ②福祉について考えよう ③声田川とともに
主な内容	身近な地域	環境	産業・食	伝統文化・歴																						
単元等	A小	・私たちの町を知ろう ①校区の公共施設を探検しよう ②地域の昔のくらしを伝えよう ③地域に伝わる行事を知ろう	・声田川博士になろう ・平和について考えよう ・平和のためにできることを考えよう	・環境問題について考えよう ・食生活について考えよう ①うずみ学習 ②食べ物にかかわる生産者の苦勞を知ろう	・昔の人のくらしから、生き方、考え方を知ろう ①福山の歴史を探ろう ②京都・奈良・大阪のれきしを探ろう 自分の生き方を考えよう																					
	B小	・榎のまち・鯛網のこと教えます ・樹徳の宝を見付けよう ・伝統文化にふれよう	・どんだん池クリーン作戦 ・平和の大切さを伝えよう	・樹徳米を作ろう ・豊かな体験を成功させよう ・福山の等を伝えよう	・人とともに生きよう ・伝統文化をつなげよう ・自分史を作ろう																					
	C小	・栄養満点大豆を作ろう ・大豆を使って食品作りしよう ・文化祭で大豆の秘密を知ってもらおう ・学んだことをまとめて発表しよう	・上井手川博士になろう ・平和について考えよう ・声田川/パピリオンを開こう ・福山のごみ問題を考えよう	・見直そう！食生活 ・体にも環境にも良い米作りしよう ・世界の米料理、日本の米料理 ・学んだことをまとめよう	・わたしたちの町を紹介しよう ・歴史探検しよう ・お世話になった方を招き、感謝の会を開こう																					
	D小	・明王台探検しよう ・食べ物はどこから ・野菜づくり ・世界の行事や遊び	・みんなにやさしくらし ①SR大作戦 ②福祉について考えよう ③声田川とともに	・見直そう！食生活 ・お米レシピを作ろう ・ふるさと広島 ・共に生きる ・学んだことをまとめよう	・わが町のエネルギー ・環境問題を考えよう① ・日本の伝統文化を探ろう ・環境問題を考えよう② ・夢や目標に向かって自分を見つめよう																					
まとめ	4 本時のまとめをする。 ①今後の学習の流れを再度確認する。	①今後の学習では、地域をより深く理解し地域とともに地域をよりよくしていくことをみんなで考えていく活動を中心に行っていくことを確認する。																								

○本時の目標

福山市における地域の特色、文化、施設について交流することが出来る。

○学習展開（４・５限目/４０）

情報の収集

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)												
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>①本時の活動の見通しをもつ。 ・本時では、福山市における地域の特色、文化、施設について知っていることなどを交流することを確認する。</p>	<p>①校区外の小学校の生徒については、その地域の特色や文化、施設に知っていることを発表してもらうようにする。</p>													
	<p>【本時のめあて】 福山市の特色や文化、施設について知っていることを交流しよう。</p>														
展開	<p>2 全体で、地域の特色と文化、施設について知っていることを交流する。</p> <p>①福山市の特色について交流する。</p> <p>②福山市の文化について知っていることを交流する。</p> <p>③地域の施設について知っていることを交流する。</p>	<p>①特色については、地形的なことや行事、特産物など、「福山といえば○○○」というようなもので思いつく限り発表させる。</p> <p>②福山市の文化や伝統行事について知っていることを思いつく限り発表させる。</p> <p>③福山市の有名な施設について知っていることを思いつく限り発表させる。</p> <p>※①～③については、以下の表の内容も含め、事前に生徒の発言したものが事実であるかどうか確認できるよう資料を準備しておく。</p>	<p>相手に、伝いたい内容を精選し、相手に分かりやすく伝える工夫をしている。</p> <p>【思－③】 (行動観察) (自己評価表)</p>												
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">市の類型</td> <td>工業都市</td> </tr> <tr> <td>都市宣言</td> <td>平和非核都市宣言 環境に優しい都市宣言 交通安全都市宣言 暴力追放都市宣言 連携中枢都市宣言</td> </tr> <tr> <td>友好・姉妹・親善都市他</td> <td>カナダ・ハミルトン市 韓国・浦項市 フィリピン・タクロバン市 アメリカ・マウイ都 愛知県・岡崎市</td> </tr> <tr> <td>特産・名産物</td> <td>福山琴 松永下駄 海産珍珠 保命酒 備後餅 ぶどう ばらグッズ くわい 福山うずみごはん びんご豊表 がす天 ネプトのから揚げ</td> </tr> <tr> <td>主な祭り・行事</td> <td>福山ばら祭り 鞆の浦弁天島花火大会 祇園祭 八朔の馬出し 内海ふれあいフェスティバル 備後一宮・吉備津神社市立大祭 福山夏祭り 下駄リンピック 鞆の浦観光鯛網 ルクシアタふくやま お手火神事 毎土夜店 神辺宿歴史まつり 秋のばら展 福山菊花展覧会 福山うずみフェスタ 鞆・町並ひな祭り たじり杏まつり ふくやまマラソン 能登原とんど</td> </tr> <tr> <td>出身著名人</td> <td>水野勝成 菅茶山 井伏鱒二 福原麟太郎 木下夕爾 藤井厚二 宮澤喜一 島田莊司 世良公則 村田兆治</td> </tr> </table>		市の類型	工業都市	都市宣言	平和非核都市宣言 環境に優しい都市宣言 交通安全都市宣言 暴力追放都市宣言 連携中枢都市宣言	友好・姉妹・親善都市他	カナダ・ハミルトン市 韓国・浦項市 フィリピン・タクロバン市 アメリカ・マウイ都 愛知県・岡崎市	特産・名産物	福山琴 松永下駄 海産珍珠 保命酒 備後餅 ぶどう ばらグッズ くわい 福山うずみごはん びんご豊表 がす天 ネプトのから揚げ	主な祭り・行事	福山ばら祭り 鞆の浦弁天島花火大会 祇園祭 八朔の馬出し 内海ふれあいフェスティバル 備後一宮・吉備津神社市立大祭 福山夏祭り 下駄リンピック 鞆の浦観光鯛網 ルクシアタふくやま お手火神事 毎土夜店 神辺宿歴史まつり 秋のばら展 福山菊花展覧会 福山うずみフェスタ 鞆・町並ひな祭り たじり杏まつり ふくやまマラソン 能登原とんど	出身著名人	水野勝成 菅茶山 井伏鱒二 福原麟太郎 木下夕爾 藤井厚二 宮澤喜一 島田莊司 世良公則 村田兆治	
市の類型	工業都市														
都市宣言	平和非核都市宣言 環境に優しい都市宣言 交通安全都市宣言 暴力追放都市宣言 連携中枢都市宣言														
友好・姉妹・親善都市他	カナダ・ハミルトン市 韓国・浦項市 フィリピン・タクロバン市 アメリカ・マウイ都 愛知県・岡崎市														
特産・名産物	福山琴 松永下駄 海産珍珠 保命酒 備後餅 ぶどう ばらグッズ くわい 福山うずみごはん びんご豊表 がす天 ネプトのから揚げ														
主な祭り・行事	福山ばら祭り 鞆の浦弁天島花火大会 祇園祭 八朔の馬出し 内海ふれあいフェスティバル 備後一宮・吉備津神社市立大祭 福山夏祭り 下駄リンピック 鞆の浦観光鯛網 ルクシアタふくやま お手火神事 毎土夜店 神辺宿歴史まつり 秋のばら展 福山菊花展覧会 福山うずみフェスタ 鞆・町並ひな祭り たじり杏まつり ふくやまマラソン 能登原とんど														
出身著名人	水野勝成 菅茶山 井伏鱒二 福原麟太郎 木下夕爾 藤井厚二 宮澤喜一 島田莊司 世良公則 村田兆治														
	<p>《教師による福山の紹介例》 福山市は、瀬戸内の中央に位置する人口47万人の中核都市です。2016年には、市制100周年を迎えます。新幹線のホームからは「福山城」が見え、古くから潮待ちの港として栄えた「鞆の浦」。戦後復興のシンボルである「ばら」などが有名です。また、優れた技術をもつオンリーワン・ナンバーワン企業が多く立地する全国有数の「ものづくり」の町でもあります。</p>														
	<p>④交流の中で新たに知ったものや興味をもったもの、質問などを発表する。</p>	<p>④交流したくないようは、ワークシートにメモさせる。</p>													
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>													

○本時の目標

城北中学校区にある，文化ゾーンやそこにある文化施設について関心を深めることが出来る。

○学習展開（6・7限目/40）

課題の設定

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>①本時の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 城北中学校区にある福山市の文化ゾーンや文化施設について知っていることを交流していくことを確認する。 	<p>①前時までは，福山市全体を対象としていたが，今度は城北中学校区に限定して交流することを確認する。</p>	
展開	<p>【本時のめあて】</p> <p>城北中学校区の特色や文化，施設について交流しよう。</p> <p>2 全体で，城北中学校区の特色と文化，施設について，知っていることを交流することを通して，今後の学習の課題を設定する。</p> <p>①城北中学校区には，どんな特色があって，どんな文化や施設があるのかを交流する。</p> <p>S：福山駅から近い S：神社やお寺が多い S：福山城がある S：城北中が福山市で一番生徒が多い学校 S：草戸稲荷（明王院）がある</p> <p>T：みなさんは文化ゾーンについて何か知っていますか</p> <p>S：よく分かりません S：知っていますが，文化ゾーンにある全ての施設は分かりません S：知っていますが，どんな施設なのかはよく分かりません</p> <p>⇒地域の文化施設についてもっと調べたい</p> <p>T：先生もどの施設も詳しいことが分からないので，これらの施設をみんなで分担して調べてみましょう。</p>	<p>①前時までの交流資料も参考に，城北中学校区の特色や文化，施設について知っていることを思いつく限り発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福山駅周辺（城北中学校区周辺）にある文化ゾーンの施設の例 <ul style="list-style-type: none"> ○福山城博物館 ○福寿会館 ○ふくやま美術館 ○広島県立歴史博物館 ○ふくやま文学館 ○人権平和資料館 ○福山自動車時計博物館 ○しぶや美術館 ○ふくやま書道美術館 等 各クラスで1カ所ずつ調べる施設を決めるため，クラスとしてどの施設について調べたいか候補を決める。 どの施設にあたるかは，次時までに各クラスの希望をもちよって教員で決定し生徒に伝える。 	<p>現状を踏まえ，これから何をすべきかを自ら決定することができている。</p> <p>【思-②】 (行動観察) (自己評価表)</p> <p>自ら課題を見だし，課題解決の方法を考えようとしている。</p> <p>【主-①】 (行動観察) (自己評価表)</p>
	<p>3 次時への活動の確認をする</p> <p>①生徒たちだけでなく，同じ地域の人たちはどの程度，文化ゾーンや文化施設について知っているのかを調べることを確認する。</p>	<p>①次時までに認知度調査するための用紙を配布し，以下の条件のもと各自で調査をさせておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人につき5名程度調査する 対象は，地域の人，近所の人，家族等 調査内容は，ア：施設を知っているか，イ：何をやる施設かを知っているか，ウ：施設に行ったことがあるかの3点 	
まとめ	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>①本時の活動における，付けたい力を確認し，どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>	

○本時の目標

文化施設の認知度の調査結果を集計することが出来る。

○学習展開 (8・9限目/40)

情報の収集

学習活動		指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>①本時の活動の見通しをもつ。 ・本時では、調査結果を集計することを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【本時のめあて】 文化施設の認知度の調査結果を集計しよう</p> </div>	<p>①調査がまだできていない生徒については、他の教職員や縦割りの他学年のクラスの生徒に協力してもらい、本時までに全員が調査を済ませておくようにさせる。</p>	
展開	<p>2 それぞれで調査した認知度の調査結果を表にまとめる。</p> <p>①各班ごとに、表にした集計シートに調査結果をまとめる。</p> <p>②集計結果を自分のワークシートに書きこむ。</p> <p>③集計結果を見て感想をワークシートに記入する。</p> <p>④次時の確認をする。</p>	<p>①黒板に拡大した集計シートを貼っておき、集計が済んだ班から、前に出て記入させる。</p> <p>②全ての集計が終わった段階で、全員にワークシートを配布し、集計結果を記入させる。</p> <p>③集計結果から何が読み取れるのか、どんなことが読み取れないのか等を視点に置き理由も含めて感想を書かせる。</p> <p>④次回は、各施設への実地調査に向けて、さらに、どんなことを調べたいのかどんなことに興味をもったのかということを中心に調査項目や調査内容を決めていくことを確認する。</p>	<p>課題解決に向けて、前向きにチャレンジしている。</p> <p>【自-①】 (行動観察) (自己評価表)</p> <p>地域のニーズを見いだすために、地域の人へ調査することができる。</p> <p>【他-①】 (行動観察) (自己評価表)</p>
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>	

○本時の目標

文化施設の実地調査の内容を決定することが出来る。

○学習展開（10・11・12限目/40）

整理・分析

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>①本時の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時では、実地調査のための調査項目や質問事項、質問内容を決めることを確認する。 	<p>①事前に、各クラスで集計した結果を集約し、本時の始めに生徒へ紹介する。</p>	
	<p>【本時のめあて】</p> <p>実地調査の調査項目や質問事項、質問内容を決めよう。</p>		
展開	<p>2 質問事項と質問内容を考える。</p> <p>①各グループで、ホワイトボードに質問事項と質問内容を考える。</p> <p>②各グループで発表し、全体で、実地調査の際の質問事項と質問内容を決定する。</p> <p>③調査項目を整理する。</p>	<p>①各グループ分ホワイトボードを用意し、次の点に注意して考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問事項は、「○○について」という表現で書きださせる。 ・質問内容は、質問内容に沿って、具体的に何を聞きたいのか実際に質問する言葉で書かせる。 ・質問事項は3個程度考えさせる。 ・なぜその質問をしたいのか理由も考えさせる。 <p>②グループごと順番に発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの発表後、他グループから、質問事項や質問内容に対する意見を発表させる。 ・前のグループで同じような質問内容があるときは、そこで意見交流する。 ・最終的に12個程度の質問にまとめさせるようにする。 ・後半の小単元の活動につながるよう、「来場者数」や「施設側の悩みや課題」等の質問内容が出なかった場合は、こちらで提案する。 <p>③質問をどのような順番で、どういった項目に区切るかを確認する。</p>	<p>調べた情報から必要な情報を抽出し、自分なりにまとめることができる。</p> <p>【思-①】 (行動観察) (自己評価表)</p> <p>現状を踏まえ、これから何をすべきかを自ら決定することができる。</p> <p>【思-②】 (行動観察) (自己評価表)</p>
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>	

○本時の目標

実地調査するインタビュー先にアポイントメントをとるために、アポイントメントについて理解し、アポイントメントにおける受け答えの仕方を身に付けることができる。

○学習展開（13限目/40）

情報の収集

整理・分析

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)								
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>①本時の活動の見直しをもつ。 ・実地調査のために、文化施設の担当者の方へアポイントをとるための電話や受け答えの仕方について学ぶことを確認する。</p>	<p>①事前に施設の担当者の方と連絡を取り、生徒からアポイントをとるための連絡があることを確認をとっておく。</p>									
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時のめあて】 アポイントのとり方と受け答えの仕方について学習しよう。</p> </div>										
展開	<p>2 アポイントのとり方について学習する。</p> <p>①アポイントとは何かを理解する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">アポイントメント (アポイント・アポ) とは</td> <td>日時・場所を決めて面会や面談、商談をする約束をとること</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">アポイントメントと するときの注意点</td> <td>①電話で一方向的に話をしないこと ⇒「うまくいわないと」というプレッシャーから、一方的にしゃべってしまいがちです。初対面の方にアポイントをとる訳ですから、言葉のキャッチボールが大切です。</td> </tr> <tr> <td>②アポイントメントの電話では詳しく話すぎないこと ⇒中身を全部伝えてしまうと、アポイントを取る意味が無くなってしまいます。なるべく簡潔に要点を伝えられるようにしましょう。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">アポイントメントの 電話をかける際のマナー</td> <td>①しっかりと相手に対する配慮を示すこと ⇒相手は、お仕事をされています。電話をして貴重な時間を割いていただいている訳ですから、電話をした際に、「今、お時間よろしいでしょうか」や「1、2分ですがよろしいでしょうか」などの相手を気遣う姿勢が大切です。</td> </tr> <tr> <td>②長電話にならないようにすること ⇒江戸時代の言葉で、「時泥棒は弁済不能の十両の罪」というものがあります。人の都合を考えずに押しかけてくる人、約束の時間を守れない人等、平気で人の時間を奪う奴は”十両の罪”と言われていたのです。「時間の使い方が下手な人に限って、他人の時間をよく奪います。」相手は、大事な仕事をされているということを忘れないようにしましょう。</td> </tr> </table>	アポイントメント (アポイント・アポ) とは	日時・場所を決めて面会や面談、商談をする約束をとること	アポイントメントと するときの注意点	①電話で一方向的に話をしないこと ⇒「うまくいわないと」というプレッシャーから、一方的にしゃべってしまいがちです。初対面の方にアポイントをとる訳ですから、言葉のキャッチボールが大切です。	②アポイントメントの電話では詳しく話すぎないこと ⇒中身を全部伝えてしまうと、アポイントを取る意味が無くなってしまいます。なるべく簡潔に要点を伝えられるようにしましょう。	アポイントメントの 電話をかける際のマナー	①しっかりと相手に対する配慮を示すこと ⇒相手は、お仕事をされています。電話をして貴重な時間を割いていただいている訳ですから、電話をした際に、「今、お時間よろしいでしょうか」や「1、2分ですがよろしいでしょうか」などの相手を気遣う姿勢が大切です。	②長電話にならないようにすること ⇒江戸時代の言葉で、「時泥棒は弁済不能の十両の罪」というものがあります。人の都合を考えずに押しかけてくる人、約束の時間を守れない人等、平気で人の時間を奪う奴は”十両の罪”と言われていたのです。「時間の使い方が下手な人に限って、他人の時間をよく奪います。」相手は、大事な仕事をされているということを忘れないようにしましょう。	<p>①アポイントの意味や留意点を確認する。</p>	<p>課題解決に向けて、前向きにチャレンジしている。</p> <p>【自-①】 (行動観察) (自己評価表)</p> <p>仲間とともに話し合いにより考えを広めたり、深めたりすることができる。</p> <p>【他-②】 (行動観察) (自己評価表)</p>
アポイントメント (アポイント・アポ) とは	日時・場所を決めて面会や面談、商談をする約束をとること										
アポイントメントと するときの注意点	①電話で一方向的に話をしないこと ⇒「うまくいわないと」というプレッシャーから、一方的にしゃべってしまいがちです。初対面の方にアポイントをとる訳ですから、言葉のキャッチボールが大切です。										
	②アポイントメントの電話では詳しく話すぎないこと ⇒中身を全部伝えてしまうと、アポイントを取る意味が無くなってしまいます。なるべく簡潔に要点を伝えられるようにしましょう。										
アポイントメントの 電話をかける際のマナー	①しっかりと相手に対する配慮を示すこと ⇒相手は、お仕事をされています。電話をして貴重な時間を割いていただいている訳ですから、電話をした際に、「今、お時間よろしいでしょうか」や「1、2分ですがよろしいでしょうか」などの相手を気遣う姿勢が大切です。										
	②長電話にならないようにすること ⇒江戸時代の言葉で、「時泥棒は弁済不能の十両の罪」というものがあります。人の都合を考えずに押しかけてくる人、約束の時間を守れない人等、平気で人の時間を奪う奴は”十両の罪”と言われていたのです。「時間の使い方が下手な人に限って、他人の時間をよく奪います。」相手は、大事な仕事をされているということを忘れないようにしましょう。										
	<p>②アポイントをとる練習をする。</p>	<p>②アポイントをとる際の、話型モデルを提示し、ペアで生徒役と施設の担当者役とに分かれ練習させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両方の役で練習させる ・お互いを評価させる ・最後に全体で、気付きや感想を交流させる 									
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>									

○本時の目標

実地調査により、調べたい情報を収集し、整理することが出来る。

○学習展開（14・15・16・17限目/40）

情報の収集

整理・分析

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見通しをもつ。 ・実地調査を行うことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時のめあて】 実地調査で、知りたい情報を漏らすことなく収集してこよう。</p> </div>	<p>①実地調査における持ち物や注意点などについて、確認しておく。</p>	
展開	<p>2 実地調査を行う。 ①実地調査を行う施設へ移動する。</p> <p>②施設の見学を行う。</p> <p>③施設の担当者へインタビューする。</p>	<p>①移動は、クラスごと駐車場に集合させ、一列で移動させる。 ※全ての施設が城北中学校より1km圏内にあるため移動はすべて徒歩 ※全ての施設に、教員が1名以上引率する</p> <p>②見学の際は以下の点に注意する。 ・入館料等が必要な場合は、事前に用意しておくこと ・見学により新たに施設の担当者へ聞きたいことや気づいたことはメモをとるよう指導しておくこと</p> <p>③インタビューの際は以下の点に注意する。 ・インタビューの流れによって、質問の流れを変えたり、追加の質問をしたりできるように班内での役割分担を明確にする。 ・インタビュー先でのマナーや礼節についても振り返りが出来るように生徒へ意識させておく。 ・施設によっては、インタビューの際、クラスの生徒全員を受入れがけない可能性があるため、その場合は、見学の後、インタビュー代表者だけ残り、他の生徒は、学校へ戻る。</p>	<p>地域の文化施設について理解を深めることができる。</p> <p>【知-①】 (行動観察) (自己評価表)</p> <p>地域のニーズを見いだすために、地域の人へ調査することができる。</p> <p>【他-①】 (行動観察) (自己評価表)</p>
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。 ①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>	

○本時の目標

実地調査の結果を整理することが出来る。

○学習展開（18・19限目/40）

情報の収集

整理・分析

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)								
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>①本時の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時では、全時に行った実地調査からえられた情報を模造紙に整理することを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時のめあて】 実地調査の内容を整理しよう。</p> </div>	<p>①各グループで、収集した情報を整理できるよう模造紙やワークシートを用意しておく。</p>									
展開	<p>2 実地調査の結果から施設の課題を見つける。</p> <p>①実地調査の結果の整理の仕方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋のかき方やまとめ方を確認する。 <p>②実地調査の結果を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地調査の結果を付箋にかき、模造紙にまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%; text-align: center;">知っていたこと</td> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%; text-align: center;">魅力的だと思ったところ</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">課題だと思ったところ</td> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%; text-align: center;">知らなかったこと</td> </tr> </table> </div> <p>③模造紙でまとめたものをもとに、自分のワークシートに書き出す。</p>		知っていたこと		魅力的だと思ったところ	課題だと思ったところ			知らなかったこと	<p>①付箋の使い方とグルーピングの仕方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・のりの付いている面は上側にする ・短いことばで付箋に記入する ・座標軸に付箋を貼っていき、同じようなものはグルーピングする。 ・グルーピングしたものには、簡単な見出しをつける </div> <p>②各自のワークシートに模造紙でまとめたことが書かれているか確認する。</p> <p>③その施設の特徴や良さをもっと広めていくためには、または、広められていないのはなぜかという視点で課題を見い出させる。</p>	<p>仲間とともに話し合いにより考えを広めたり、深めたりすることができる。</p> <p>【他-②】 (行動観察) (自己評価表)</p>
	知っていたこと		魅力的だと思ったところ								
課題だと思ったところ			知らなかったこと								
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>									

○本時の目標

実地調査をもとに、文化施設の活性化のための手掛かりを見い出すことができる。

○学習展開（20・21時限目/40）

課題の設定

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見通しをもつ。 ・実地調査で整理した情報をもとに、気づきや感想を交流することを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【本時のめあて】 調査結果をもとに気づきや感想を交流し、今後の学習課題を設定しよう。 </div>	①前回までの調査結果や資料を準備させておく。	
展開①	2 実地調査から今後の学習課題を見いだす。 ①実地調査の結果をもとに気づきや感想を交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> S：今回の調査で、思ったよりたくさんの文化施設が城北中学校区にはあることが分かりましたが、僕も含めて地域の人はそのことをあまり知らないことに驚きました。 S：これだけ限られた地域にたくさんの文化施設があり、その施設を運営するためには大変な努力が必要であることを気づかされました。 S：施設の方の思いや願いが、地域の方や来館される方に十分に届いていないことが残念に思いました。 S：もっと地元の私たちが、こういった文化施設のことを知っておかないといけないと思いました。理由は、… ⇒ もっと地域や他の地域の人たちに福山の文化施設の魅力を発信したい！ </div>	①気づきや感想は、必ず理由もつけて発表するようにさせる。 ※生徒が本時の目標をねらいとする課題に気づくことが出来るよう、各文化施設における来館者数や認知度、施設の方の思いや願いなどを事前にリサーチしておき、状況にあわせて生徒へ情報提供できるようにしておく。	仲間とともに話し合いにより考えを広めたり、深めたりすることができる。 【他-②】 (行動観察) (自己評価表) 自ら課題を見だし、課題解決の方法を考えようとしている。 【主-①】 (行動観察) (自己評価表)
展開②	3 施設活性化のためのテーマを考える。 ①グループ内で、案を出し合い、最も共感できるものをテーマに設定する。 ②グループごと設定したテーマと理由を全体へ説明する。 ③他のグループの意見をもとに、テーマとその設定理由の修正をする。 ④テーマや理由を修正したグループは、再度全体へ説明する。	①～④ 机間指導により、施設活性化のために設定したテーマ施設側の願いや思いに沿ったものであるかどうかを確かめるかどうかをしっかりと吟味させる。	
まとめ	4 本時のまとめをする。 ①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。	①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。	

○本時の目標

文化施設の活性化のための方法を考えることができる。

○学習展開（22・23時限目/40）

情報の収集

整理・分析

学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
<p>導入</p> <p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見通しをもつ。 ・施設の活性化のためのテーマを受けて、具体的に自分たちがどのような提案ができるのかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時のめあて】 施設の活性化のためにはどうすればいいか考えよう。</p> </div>	<p>①企画書のプレゼンは、最終的にポスターセッションという形で行い、ゲストティーチャーが来て、講評をいただくことと、実際に企画を実行することが単元のゴールであることを確認する。</p>	
<p>展開①</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <pre> graph TD A(施設の状態) <--> B(何とかしたい) A --> C[アイデア] B --> C C --> D(企画) </pre> </div> <p>・企画書を作成する目的の確認。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「企画書の目的は、作成者が受け手に対して情報を正確かつ効果的に伝達し、受け手に作成者の意図するような判断・意志決定をしてもらうためのものです。間違えてはいけないのが、自分の意見や事実を表現することが企画書の目的ではないということです。そのためには、受け手にこちらの意図をうまく伝え、理解し納得してもらうことが重要です。 あなたたちは、施設のことやその良さを広めるためにこの企画書を作ります。作るからには、誰もが魅力を感じ、納得できる企画を考えてもらいたいですね。」</p> </div> <p>②企画書作成のポイントを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>次の2つにポイントを絞って企画書を作成しよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伝えたい内容の構成をきちんと組み立てよう 2. 相手にとって見やすく分かりやすいことを心がけよう </div> <p>・良い構成とはどういうものか考える。 ○「良い構成とはどのようなものだと思いますか」</p>	<p>①企画書を作成するにあたり、何をどうやってするのか、具体的に考えさせるための指示を与える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○コンセプト ⇒企画の売りは何なのか ○ターゲット ⇒対象はどこに設定するのか ○プロセス ⇒どうやって実行に移すのか ○ツール ⇒何を使うのか </div> <p>②資料を提示し、企画書作成のイメージを全体で確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>構成の展開として意識してほしいこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現状分析・整理（18・19時） 今のような現状かを整理する。 2 問題の発見（20・21時） 何が問題なのかを洗い出す。 3 解決策を考える どうしたらいいのかのアイデアをしつかりと出しあう。 4 具体策を考える 実現可能かどうか、魅力を感じる案かどうかを考え、推敲を繰り返す。 </div>	

	<p>・見やすく分かりやすいとはどういうことか考 える。 ○「どんな工夫をすると見えやすく分かりや すい企画書になると思いますか」</p>	<p>・見やすく分かりやすい効果的な方法</p> <p>1 ビジュアルが大切です</p> <p>「メラビアン^①の法則」によると、人の第 一印象は、①見た目（外見）55%、 ②話し方（声）38%、話の内容7% という順で決まるといわれています。 つまり、見た目で勝負が決まってしまう</p> <p>2 魅力的なタイトルを</p> <p>企画するからには、受け手に見ていた だかないと意味がありません。思わず 見たくなるようなタイトル（見出し） の工夫も必要</p>																																			
<p>展開②</p>	<p>3 ワークシートに企画書作成のための案を書 きだす。</p> <p>①施設活性化のための方策をグループ内で意見 を出し合い、記録係がそれらをすべてワークシ ートに書き出す。</p> <p>②一つ一つの意見に対して、提案としての妥当性 を細かく分析する。</p> <table border="1" data-bbox="245 882 711 1084"> <thead> <tr> <th>提案</th> <th>良い点</th> <th>悪い点</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>《提案1》</td> <td></td> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>《提案2》</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>⋮</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⋮</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○「どんな提案がより多くの人の心をつかむと 考えますか」</p> <p>③その提案を実現するためには、何が必要である かを具体的に書き出す。 ○「その提案を実現させるために必要なものは 何か、何がそろえばその提案は実現可能であ るか考えましょう」</p> <p>④これまで整理・分析に使用したワークシートを もとに企画書の内容を考える。 ○「企画書の第1案を作成するために、これま でグループで交流・協議したことを整理しま しょう」</p> <table border="1" data-bbox="231 1579 745 1872"> <thead> <tr> <th>タイトル</th> <th>〇〇プロジェクト！</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>提案先</td> <td></td> </tr> <tr> <td>提案理由</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実行対象</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実行内容</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	提案	良い点	悪い点	評価	《提案1》			8	《提案2》			4	⋮				⋮				タイトル	〇〇プロジェクト！	課題		提案先		提案理由		実行対象		実行内容		目標		<p>①考えが無駄なものであるかどうかは、最 最終的に判断すればよいので、まずはそれ ぞれがしっかり意見を出し合うように することを確認する。</p> <p>②提案の中身について、いろんな視点で 吟味をさせる。 ・受け手の立場に立った提案となっ ているか ・提案の裏付けとなるものを示すこ とができるか ・提案内容は施設に対して失礼がない ものであるか ・実現の可能性があるか ・効果が期待できるものであるか ・その施設にとって本当に必要な提案 であると考えられるか</p> <p>③提案を実現させるためには、多くの準備 が必要であることを実感させる。 ・時間はどのくらいかかるか ・費用はどのくらいかかるか ・どんな人に協力してもらわないとい けないか ・自分たちでできることはどこまでか</p> <p>④これまで交流したことを整理し、企画書 作成するための準備をさせる。以下に示 す部分は、必ず企画書の中に入れるよう 確認する。 ・施設の特徴や良いところなどストロ ングポイントを整理させる ・実地調査を受けて活性化に向け現状 の課題を整理させる ・活性化の為の提案内容を整理させ る ・活性化の為の具体的な行程を整理さ せる</p>	<p>調べた情報から必 要な情報を抽出 し、自分なりにま とめることができ ている</p> <p>【思-①】 (行動観察) (自己評価表)</p> <p>地域の課題解決の ために、何をすべ きかを考えたり、 実行に移したりす ることができている。</p> <p>【社-①】 (行動観察) (自己評価表)</p>
提案	良い点	悪い点	評価																																		
《提案1》			8																																		
《提案2》			4																																		
⋮																																					
⋮																																					
タイトル	〇〇プロジェクト！																																				
課題																																					
提案先																																					
提案理由																																					
実行対象																																					
実行内容																																					
目標																																					
<p>まとめ</p>	<p>4 本時のまとめをする。 ①本時の活動における、付けたい力を確認し、ど の程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付い ているかを自己評価表に記入させる。</p>																																			

○本時の目標

文化施設の活性化のための企画書の第1案を作成することが出来る。

○学習展開 (24・25限目/40)

情報の収集

整理・分析

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見通しをもつ。 ・企画書を作成することを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【本時のめあて】 文化施設の活性化のための企画書を作ろう。 </div>		
展開①	2 企画書第1案を作成する。 ①前時までに、整理したものを企画書として形にする。	①資料を提示し、統一して記入すべきフォーマットについて確認をしておく。 ・企画書の向き ・テーマ ・企画書の構成として入れるべき内容	調べた情報から必要な情報を抽出し、自分なりにまとめることができる 【思-①】 (企画書) (自己評価表)
展開②	3 企画書を練る ①作成した企画書の第1案を他のグループに見てもらい意見やアドバイスをもらう。	①クラス内の2グループごとで、企画書の第1案を相手グループに紹介し、意見交換をし、より具体的で役割が明確になる案になるよう推敲を繰り返させる。 ・良いと思うことを伝えること ・批判だけでするのではなく、できるだけ代案も示してあげること ・交流した内容は、メモをとること ・2～3回グループを変え交流する ・交流では、前に出た以外の意見が出るようにさせる	課題解決に向けて、前向きにチャレンジしている。 【自-①】 (自己評価表)
まとめ	4 本時のまとめをする。 ①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。	①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。	

○本時の目標

文化施設の活性化のための企画書の第1案の修正をすることが出来る。

○学習展開（26限目/40）

情報の収集 **整理・分析**

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【本時のめあて】 企画をよりよくするために企画書を修正しよう。 </div>		
展開 ③	2 企画書の第1案を修正する。 ①前時までに得た、企画書の第1案に対する意見やアドバイスをもとに、再度企画書をビルドアップする。 ②企画書の内容を担当の先生に確認してもらう。	①新たな企画書の作成の際は、見栄えや配置なども考えながら丁寧に作成させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・これが最終的な企画書になる ・内容をより際立たせるために、見た目にもこだわって作成することが大切 </div> ②企画書を確認し、誤字や脱字をはじめ、表現に不適切なものがないかどうか、より伝わりやすい構成や表現がないかどうかなどを視点に置き、助言する。	調べた情報から必要な情報を抽出し、自分なりにまとめることができる 【思-①】 (企画書) (自己評価表) 課題解決に向けて、前向きにチャレンジしている。 【自-①】 (自己評価表)
まとめ	3 本時のまとめをする。 ①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。	①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。	

○本時の目標

企画をプレゼンするための原稿を考えることができる。

○学習展開（27・28時限目/40）

まとめ・創造・表現

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>①作成した企画書をプレゼンするために原稿に入れるべきもにはどんなものが必要か交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時のめあて】 企画をプレゼンするための原稿を考えよう。</p> </div>	<p>①板書にて、単語やキーワードをしっかりと出させ、それをイメージマップでまとめる。</p>	
展開 ①	<p>2 発表の為の原稿をつくる。</p> <p>①原稿の作りのポイントを確認する。</p> <p>○「原稿を発表するとき、1分間でどのくらいの文字数を話すのが理想だと思いますか」</p> <p>○「プレゼンの冒頭に話す書き出しにはどのような内容があるといいと思いますか」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>プレゼンのよい例とわるい例を見て、比較することで、自分なりに、プレゼンのポイントを整理する。</p> </div> <p>○「プレゼンの本文について意識することにはどんなことがあると考えられますか」</p> <p>②原稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で構成を決めて、発表する場所を分担し各自で原稿を考える。 ・グループで原稿を交流し、推敲・修正する。 	<p>①原稿作りの際のポイント为例示し、どちらが聞きやすいか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ原稿の文字数を考える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>一般には理想とされる文字数は、1分間に約300文字といわれている</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・書き出しを考える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>プレゼンの冒頭には、どのような内容（重要なポイント）を話すのか、何分間話すのかなど、全容がイメージできるような文章構成が大切 全容を最初に説明することで、受け手もしっかりと聞く準備ができる</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・構成に従って 本文を書く <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文の原稿を作成するにあたり、次の3点を意識することが大切</p> <p>①はじめから完璧な文章を作ろうとしないこと</p> <p>②文章は出来るだけ短くすること</p> <p>③誰もが理解できる言葉を使うことを心掛けること</p> </div> <p>②プレゼンの約束事を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの各グループに与えられる時間は7分。 ・各グループ全員発表すること。 	<p>相手に、伝いたい内容を精選し、相手に分かりやすく伝える工夫をしている。</p> <p>【思-③】 (行動観察) (自己評価表)</p>
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>	

○本時の目標

リハーサルによりプレゼンの内容を改善することが出来る。

○学習展開 (29・30限目/40)

まとめ・創造・表現

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【本時のめあて】 リハーサルで、プレゼンの改善点を修正しよう。</p> </div>		
展開	<p>2 ポスターセッションリハーサルを行う。 ①リハーサルの手順を確認する。</p> <p>②リハーサルを行う。</p> <p>③プレゼンの修正を行う。</p>	<p>①リハーサルの際の注意点を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ場所は各教室の〇〇 ・各グループ壁に向かってリハーサルをする ・時間は△△分まで ・時間も計っておくこと ・相手にとって分かりやすく伝えるための工夫 </div> <p>②グループ内で相互評価をして改善点を伝え合うようにさせる。 ※一度は担任がチェックを行い、改善点をアドバイスする</p> <p>③修正は、漏れや落ちがないようグループ全体で確認しながら行わせる。</p>	<p>相手に、伝いたい内容を精選し、相手に分かりやすく伝える工夫をしている</p> <p>【思-③】 (行動観察) (自己評価表)</p>
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。 ①本時の活動における、付きたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p> <p>②次回のポスターセッションにおける流れの確認をする。</p>	<p>①本時で付きたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p> <p>②体育館での動き、手順、流れ等の確認を資料を使って説明する。</p>	

○本時の目標

作成した企画の魅力を発信することができる。

○学習展開 (31・32時限目/40)

まとめ・創造・表現

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>①本時のめあてと流れについて説明を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・全体確認 (10分) ・ゲストティーチャー紹介 (3分) ・第1グループ発表準備 (5分) ・発表を聞くグループの移動 (5分) ・第1グループ1回目発表 (7分) ・発表を聞くグループ質疑応答 (3分) ・発表を聞くグループ移動 (2分) ・第1グループ2回目発表 (7分) ・発表を聞くグループ質疑応答 (3分) ・(トイレ休憩5分) ・第2グループ発表準備 (5分) ・発表を聞くグループの移動 (5分) ・第2グループ1回目発表 (7分) ・発表を聞くグループ質疑応答 (3分) ・発表を聞くグループ移動 (2分) ・第2グループ2回目発表 (7分) ・発表を聞くグループ質疑応答 (3分) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時のめあて】 自分たちの考えた企画を提案しよう。</p> </div>	<p>○ゲストティーチャーのおもてなし担当の生徒にどのようなおもてなしが心に響くか考えさせておく。</p> <p>①本時の流れについて説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始時間までに体育館に集合させる ・他者評価用シート・筆記用具・原稿を持参させる ・ポスターセッションは3クラスごと体育館の両サイドに分かれて行う ・その他3クラスの生徒は、始めの5分で各企画書を見てまわり、各自興味のある場所へ移動する ・ポスターセッションを聞き、評価シートへ記入する ・ポスターセッションは、1グループ2回行う 	
展開	<p>2 作成した企画書のプレゼンをポスターセッションの形式で行う。</p> <p>①ポスターセッションを行う。</p> <p>②ゲストティーチャーから講評をしていただく。</p> <p>③他者評価用のシートを回収する。</p>	<p>①拡大した企画書をもつ役の人、話をする人、後ろで整列して待っている人の役割などを事前に確認させておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副担は、発表の様子を写真にとる ・担任は、クラスの生徒の発表を見て周り、評価する <p>②ゲストティーチャーからは、プレゼンや企画書に対する講評をしていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒へは、ゲストティーチャーの講評をメモするよう指示しておく <p>③他者評価用のシートを回収し、各グループの企画書とプレゼンの評価の平均点を集計し、次回までに全体へ発表できるようにしておく。</p>	<p>相手に、伝いたい内容を精選し、相手に分かりやすく伝える工夫をしている。</p> <p>【思-③】 (行動観察) (他者評価表)</p> <p>自ら課題を見いだし、協働して解決しようとしている。</p> <p>【主-②】 (行動観察) (他者評価表) (自己評価表)</p>
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>	

○本時の目標

実現可能な企画書を再提案することが出来る。

○学習展開（33・34・35限目/40）

まとめ・創造・表現

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>①本時の活動の見直しをもつ。 ・提案の実現に向けて、全時におけるポスターセッションを振り返り、再度企画を通すために企画書の最終版を作ることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時のめあて】 提案の実現を目指し、企画書の最終版を作ろう。</p> </div>	<p>①前時のポスターセッションにおける課題を整理し、企画書の何を具体的に修正するか確認するところから始めることを指示する。</p>	
展開①	<p>2 企画書の修正部分の確認をする。</p> <p>①前時に行った、ポスターセッションによりゲストティーチャーからいただいた新たな視点や他者評価表をもとに企画書の修正部分をグループで確認する。</p> <p>②企画書を修正するにあたり注意事項を確認する。</p> <p>③修正内容を検討する。</p>	<p>①他者評価表やゲストティーチャーからの講評を担任も集約しておき、机間指導等で適宜助言する。</p> <p>②この企画書の最終版で、提案が実行できるかどうか決定することを確認する。特に、すべてのグループの提案が実行できるとは限らないことも確認しておく。</p> <p>③修正内容については、次の内容を視点に置き、助言する。 ・ゲストティーチャーからいただいた新たな視点に沿うものであるか ・日程的に実現可能であるかどうか ・費用がかかりすぎないか</p>	<p>相手に、伝いたい内容を精選し、相手に分かりやすく伝える工夫をしている。</p> <p>【思-③】 (行動観察) (他者評価表)</p> <p>自ら課題を見だし、協働して解決しようとしている。</p> <p>【主-②】 (行動観察) (他者評価表) (自己評価表)</p>
展開②	<p>3 企画書の最終版を完成させる。</p> <p>①企画書の最終版を作成する。</p>	<p>①企画書の最終版が完成したグループから内容を説明させる。</p>	
展開③	<p>4 完成した企画書の再提案</p> <p>①企画書の最終版を各文化施設の担当者へ郵送し、企画書の評価とその提案の実行に協力していただけるかの回答をしていただく。</p>	<p>①事前に、各文化施設の担当者へは連絡を行い、企画書の最終版を送付させていただくことと、加えてその企画書の提案の実行の可否についての回答をいただきたいことの下承を得ておく。 ・後日実行できる提案を発表することを生徒に伝える。</p>	
まとめ	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>	

○本時の目標

提案を実行することが出来る。

○学習展開 (36・37・38・39限目/40)

実行

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時のめあて】 提案を実行し、文化施設の活性化に貢献しよう。</p> </div>	<p>①実行のための準備期間として、前時から本時までの時間を少し開けておき、学活や道徳、本単元に関連する教科、放課後等も活用して、実行のための準備期間を十分に確保しておく。</p>	
展開	<p>2 実行する ①今後の動きの確認をし、企画を実行する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A：企画が実現できるグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○想定1：いつでもすぐに実行に移せる場合（例：駅前での宣伝、広告配り等） ⇒36・37時までに準備を進め、38・39時までに実行に移す。 ○想定2：実行のための制作物が必要な場合（例：ポスター制作、展示物制作等） ⇒36～39時までに制作物を作成し、完成後、学活等を利用して、関係場所へ掲示又は展示等の持参し、実行に移す。 ○想定3：関係する施設の行事等にあわせて実行する場合（例：○○展、△△デー等） ⇒36時までに具体的な打ち合わせを関係施設と行い、36～39時で実行に移す。 ○想定4：授業時間内で実行が難しい場合 ⇒Bへ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>B：企画が実現できなかったグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○想定1：「なんとか企画を終わらせたくない」という場合 ⇒福山市役所文化課の担当者へ来ていただき、「地域の文化施設の活性化」という題名で、作成した企画を再度プレゼンを行う。 ○想定2：「個人的にでも実行したい」という場合 ⇒関係施設に了承を得て、個別にボランティアとして実行をおこなう。 </div>	<p>①実行に移すまでに以下の点に留意する。 ・実行に移すまでの工程を事前に想定しておく。</p> <p>・校内の教職員や保護者へも総合的な学習の時間の取組みや実行の様子が分かるよう、HPや学年通信等で随時案内する。</p> <p>・各グループで実行における動きが異なるため、事前に学年団で役割分担を決めておく。</p> <p>・生徒へは、実行にあたり、学校外の活動についての心構えを再度確認することと、何より学校だけの活動ではなく、その施設の看板を背負っていることに対する自覚と責任感を持たせる。</p>	<p>活動や取組の成果を支援者と共有できる。</p> <p>【他-③】 (行動観察) (自己評価表)</p> <p>地域の課題解決のために、何をすべきかを考えたり、実行に移したりすることができている。</p> <p>【社-①】 (行動観察) (自己評価表)</p>
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。 ①本時の活動における、付けたい力を確認し、どの程度身に付いたかを振り返る。</p>	<p>①本時で付けたい力がどの程度身に付いているかを自己評価表に記入させる。</p>	

○本時の目標

この単元を通じて学習したことを振り返ることができる。

○学習展開（40時限目/40）

振り返り

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時のめあてと流れについて説明を聞く。	①単元全体で学習したこと、この単元の学習を通じて、自らが成長したことや身に付いたことなどを交流することを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【本時のめあて】 この単元を通じて、学習したこと、成長したことをまとめよう。</p> </div>			
展開①	2 実行の振り返りを行う ①実行を終えての感想や反省、または、新たに湧き出した課題などを交流する。	①達成度（満足度）を数値化し、その数値をもとにプラス面やマイナス面が何であったかを交流させ、そこから次への目標や課題が湧きやすくなるように働きかける。	単元を振り返り、この地域でよりよく生きるとはどういうことか考えることができている 【自-②】 (自己評価表)
展開②	2 この単元の振り返りを行う。 ①この単元を振り返り、成長したこと、良かったこと、課題として残ったこと、悔しかったことなどを交流する。	①担任は、生徒の発言をなるべく具体的に広げるよう発問する。 例「〇〇が成長したっていいましたが、それは具体的に、どの場面のときにどうして成長することができたのか教えてください」	
まとめ	3 本単元のまとめをする。 ①本単元の活動において、どのような力がどの程度身に付いたかを振り返り、文章でまとめる。	①本単元でどのような力がどの程度身に付いたのか、どのような達成感があったのか、または、どのような課題があったのかなどをしっかりと振り返らせ、自己評価表に文章でしっかりと記入させる。	